

平成22年度 国際教育教材体験フェア in 滋賀 報告

2011年2月19日（土）開催

【分科会1】「ものランゲージ “ブラジルボックス”」

■講師：奥村ルシア克子さん（国際教育研究会 Glocal net Shiga） ■参加者数：16名

（1）ブラジルボックス

本教材は、国際教育研究会 Glocal net Shigaが日本に暮らすブラジル人の理解に向けて6年前に開発した初の教材。

小・中学校や地区懇談会などで、対象者に合わせて話し方やテーマを変えて利用している。

ブラジルの文化や言葉にまつわるクイズから始まり、「ブラジルボックス」の小物を使ったアクティビティの実践を行った。



（2）多文化共生社会について 講師からの解説

1) 日本在住の外国人数と増加原因、県外国人登録者数、日本の国際結婚の割合等紹介

2) 日系4世 新垣アンナさんの紹介

3) 移住の歴史について

4) 日本における日系人について

日本に暮らす外国人は、地域の中で文化（習慣・食・言語等）が異なるため、マイノリティーとして生活している。そうした外国人の文化を理解する = “共生”

★「外国人」をひとくくりにせず、複雑ではあるけれど、それぞれの文化について理解することが必要。また、日本に暮らす外国人自身も日本人に求めるだけではなく、「共生」について理解を深めていく必要があると締めくくられました。

【分科会2】「世界のために何かしたい！」考えてみよう協力のカタチ」コゲロ村ワーク

■講師：江本佐保子さん（JICA大阪デスク）お話：中川宏治さん（元青年海外協力隊） ■参加者数：17名



コゲロ村ワーク

※ 事前準備として、周囲に写真パネルを貼っておき、布で隠しておく

- ① コゲロ村の情報が記載している用紙、選択肢カードを各グループに配布。
- ② 支援の内容が記載されている選択肢カード（20枚）からコゲロ村に対して5シリングの範囲内で、できることを考え、それをポスターに貼付、その支援カードを選んだ理由も記載する。

- ③ それぞれのグループが選択した内容と理由を発表。

→ すべてのグループが「命、健康」を第一に考えるとしていた。余力があれば、教育や生活向上にまわすという意見を出すグループもあった。

④ コゲロ村に実際にに行くという設定で、周りの布をはずし、写真やそこについている説明から現地の情報を得る。（例えば「井戸を掘ってみたが、その水が汚染されていて使い物にならなかった」「蚊帳を配ってもみんな使い方を間違っていた」など）

⑤ それらの情報を見た上で、前回選んだ支援の選択肢カードが本当に正しいものなのかを考え、話し合い、選びなおす（もちろん変えなくてもよい）。

⑥ それぞれのグループで1回目に選択した内容となぜ2回目の内容が変わったのかを発表。

（あるグループの支援内容変化の例）

1回目

- ・井戸を一つ作る
 - ・蚊帳を配る
 - ・医者を呼んでくる
- （理由：医療、命を守ることが一番大切）



2回目

- ・簡単なろ過装置を作る
- ・灌漑設備を作る
- ・お土産の作り方を教える

（理由：最低限安全な水を提供することが必要だと判断したが、農作物用の水が足りないことに困っているということを村人が言っていたので、医療だけでなく村人にとって一番大事だと思われるものを選んだ）

- すべてのチームで選択肢カードの中身がいくつか変わっている。
- なぜかというと、現状を見ると、本当に必要なものとこちらがよかれと思ってやったことが全然違うことに気づく = 情報の量が違う
- 現地のことを知らなければならないということを改めて体感できた。
- 募金や文房具を送るなど、途上国のために何かやってみたいと考えたときに、こちらがよかれと思ったことをやるのではなく、向こうのニーズに合わせることが大切。まずは「知る」ということが大切。
- 「何かしたい」という声が出たときに、一度立ち止まり、このワークをしてもらうことで知ることの重要性を知ることができると思う。

⑦ “知る”ために、どのような方法があるか？話し合い、発表

- ・テレビ、インターネット
- ・海外の友達と仲良くなる。語学の勉強をする。
- ・JICAの人（協力隊OVなど）を呼んで話をしてもらう。
- ・姉妹都市との交流、情報交換
- ・支援活動を行っている機関（NGOなど）から話を聞く
- ・外国人を家に泊める（ホームステイなどの受け入れ）など



4. 元青年海外協力隊 中川さんのお話

ケニアでのボランティア経験から、援助については、例えば、現地ではインフラ整備ができていないために渋滞が起こっている。しかし、その渋滞が起こっているおかげで、止まっている車に向かって物を売る人たちがいて、生計をたてている人たちがいる。先進国がよかれと思ってやったことが、実はほかの人の生活を圧迫する場合もあるので、しっかりと考えた上で援助はしなければならないとお話をされました。



【分科会3】「非識字体験ゲーム『ここは、何色?』」

■講師：森雄二郎さん（国際教育研究会 Glocal net Shiga） ■参加者数：16名

非識字体験ゲーム「ここは、何色？」

①ペアごとにプリント2枚（100マスプリントと指示プリント）を配布

②ゲームのルールプリントを3段階で配布

(1番目：タイ語など希少言語、2番目：英語、3番目：日本語)

☆ルール：指示プリントに記載されている各単語（様々な言語で色を表したもの）を壁に貼られた辞書から見つけ出し、指示されたマスを色鉛筆で指示通りの色で塗って絵を完成させる。



③ゲーム開始

(参加者の感想)

- ・楽しかった。
- ・2回目は予想ができるし、探しやすかった。
- ・スペイン語とポルトガル語など似ている言語があった。
- ・ペアだとワイワイ楽しみながらできたが、個人で行った場合は、無言となつたため、ペアで行う方が楽しかった。
- ・最初のルールプリントが配られた時は、訳が分からなかった。
- ・歩いて見て回って分かる楽しさと絵を完成させる楽しさという2つの楽しさがあった。

ふりかえり このアクティビティからの学びの発展についての提案

①言語の多様性、②言語の分布、③非言語のコミュニケーション

↓

<ふりかえりから広がるテーマ例>

- ・世界の教育格差、・身近な多文化共生、・ノンバーバルコミュニケーションなどをテーマに発展していくことができる。

【分科会4】「教師海外研修参加者による授業実践」～タンザニアの豊かさに触れて～

■講師：井上陽平さん（甲賀市立甲南中学校教諭） ■参加者数：約40名

(1) 自己紹介

☆タンザニアに行くにあたってのエピソード。アフリカ（タンザニア）に対するイメージ、“貧しさと豊かさ”について。実際に現地に行ってみて感じたことの伝え方。伝えたい事柄、伝えたい豊かさをどう表すか。

(2) 国際理解教育・私の鉄則

☆鉄則① 計画段階…教える順序がある

まずその国を好きになってもらう。そして目に見える問題を考える。

☆鉄則② 実践段階…生徒を中心にする

1. 課題の提示
2. 生徒各自の問いかけ
3. 全体の交流
4. 教師の思いを伝達

(3) 私の実践：タンザニアを例にした授業

計3時間

第1時間目：タンザニアの意外な素顔

ねらい：インパクトある映像・写真で好印象をもつ

- ① 同年齢の人の写真→タンザニアの元気な子ども達の写真
- ② 担任（先生自身）の写真→タンザニアにいる自分の写真（本当に行った証拠）
- ③ 予想外なものが写っている写真（イメージを壊すため）
→タンザニア人が持つ携帯電話（未開なイメージがあるのに文明がある）

実は食べ物もある（市場の写真）

- ④ 日本が写っている写真
→現地の子どものTシャツにプリントされた日本アニメ、町を走る日本車
- ⑤ 日本の生徒に関係するもの
→日本の生徒が書いたメッセージがタンザニアの孤児院に届いた写真



第2時間目：タンザニアの文化（料理と格言）

ねらい：プラスの出会いで文化への尊敬の念をもつ

- ① 自作のタンザニア定食を作る
- ② カンガに書かれた名言集からマイベストを決める

※次頁プリント参照

→このプリントでスワヒリ語をあえて生徒に書かせる。韻をふんでいることを認識する。生徒達で互いに好きな名言を話し合ったりする。

タンザニア カンガに書かれたことば集

名前()

- KHERI NYUKI KULIKO CHUKI
誰かと楽しいあって生きるよりはミツバチに刺された方がまし
- NAISHI NIZEZAVYO SHISHI MTAKAVYO
あなたの人生はあなたのもの。あなたの意志で生きなさい
- CHONGENI FENICHA MSICHONGE MANENO
言葉を作ること、家具を作れ(ゲダグダ言うヒマがあったら何か行動しろ)
- LIKIMFIKA MWENZIO LIONE KAMA LAKO
友達が抱える問題は、あなたの問題だと思なさい
- MAMA NI MALKIA WA AMANI
お母さんは平和の象徴
- VIETENDO VYEMA MUNGU HUBIBARIKI
いいことをすれば必ずあわせが訪れます
- USILOLIJUA LITAKUSUMBUA
よく知りもしないことに首を突っ込んだでも失敗するだけ
- JAPO SIPATI TAMAA SIKATI
叶わないかもしれないけれど、私は望みを捨てません
- DUNIA NI MAPITO DUNIA SI YETU
「この世」は誰もが通るところ(いつまでもこの世にこだわるな)
- SILAZIMA KITU BORA UTU
大切なのはモノではない。思いやりだ
- MASKINI WA LEO TAJIRI WA KESHO
昨日の貧民、明日の富豪(貧乏人が後で金持ちになることもある。だから人を見下げるな)
- UPENDO NITUDA LA ROHO
愛情は心の果実
- HARAKA HARAKA HAINA BARAKA, POLE POLE NI NDIO MWENDO
急げ急げじゃ幸せは来ない。ゆっくりこそが本当の歩み
- KUINAMAKO NDIKO KUINUKAKO
かがみこむ場所こそ立ち上がる場所
- MSO HILI ANA LILE
「これ」を持っていない人は「あれ」を持っている
- FURAHA NA MSIBA NDIO DUNIA
いいこと悪いこと、いろいろあるのが人生さ

こんなもあります

◎自分が「これいいな!」と思う言葉を挙げ、その言葉に対するあなたの考えを書きなさい

スワヒリ語 _____

日本語 _____

あなたの
思い
.....

井上さん作成

第3時間目：ナリエンデーレ小学校の課題

ねらい：国際貢献の意欲を高める

- ① 日本の国際貢献を紹介 →青年海外協力隊の活動を紹介
- ② ナリエンデーレ小学校の悩み プリントを記入し、みんなと話し合いながら考える

結論： ○答えはない。

○優先事項はない。

○国際貢献は常に話し合うことが大切であるということ。

以上、授業についての発表

(4) 国際理解的視点の授業作り

国際理解的視点での資料選び

→なにこれ？？と思う資料を選ぶ。

→生徒の身近なものと関連づける学習をすると、導入がスムーズになる。

★まとめ★

大槻一彦さん（国際教育研究会 Glocal net Shiga）

国際教育を現場で実施するのは難しい。1時間で全てを折り込むのは至難の業なので、ねらいを決めることが大切である。

伝えたいことはたくさんある → 貧しさ・幸せ・協力活動とはなにか？など。しかし、色々なことをやりすぎている感じは否めない。

そこで、絞り込んでいくことの大切さ → テーマを決めることが大切

例：途上国は、意外に思うかもしれないが“豊か”であることを伝える

《資料・材料について》

資料は、少ない方がよい。一枚の写真から学びとることが大切である。（大体1時間の授業に5~6枚）。音楽は30秒以下、映像は15秒 → 大事なことは雰囲気を伝えること。

資料も絞りこんで見せていく！

《グループワークについて》

1グループで考えられることは、だいたい2、3つのことなのであまり多くを望まない。

国際理解教育の授業では、自分が楽しむことが大切

教員（ファシリテーター）は、最高のシミュレーションをして挑むのがよい秘訣。

最後に、国際教育という言葉は難しい。最近は（流行りの？）ピークを過ぎている。

例えば、国際関係学科といわれる学部・学科がなくなっている傾向にある。理由の一つとしては、そのような学科の就職口がないということにある。

だが、国際教育は人権教育・南北問題・社会問題・共に暮らす視点などにからめて授業をすることができるとも考えながら実践していこう。

<教材フェア番外編>

【堀川高校生による新作アクティビティ】「堀川レストラン」

■講師：堀川高校 生徒 ■参加者数：20名（3グループ）

■実施内容：

- ①レストランでメニューを渡され、「パン・サラダ・ハンバーグ」に該当する番号をメニューから選択するというもの。しかし、各グループのメニューは、アラビア語、タイ語、ハングル語で記載されている。
- ②選択したものの写真が運ばれてくる。
- ③続いて、各グループ中国語、英語、日本語で記載されたメニューから「ドリンク（コーヒー又は紅茶）・デザート（ケーキ又はアイスクリーム）」を選択する。
- ④選択したものの写真が運ばれてくる。
- ⑤グループ内で感想を話し合い、発表。

（参加者の感想）

- ・文字が読めないことを体験でき、その不便さ・怖さがわかった。
- ・日本国内にもこのような不便さを感じている外国人が住んでいることを理解しないといけないと思った。



「国際教育研究会 Glocal net Shiga」について

私たち、「国際教育研究会 Glocal net Shiga（くろーがる ねつと し が）」は平成15年（2003年）4月に立ち上がったグループです。名前にある“Glocal”とは Global+Local を結びつけた造語です。“Think Globally, Act Locally”（地球規模で考え、地域から行動する）という開発教育／地球市民教育／グローバル教育の地域社会に対する考え方を現すことばがあり、地球と地域を結ぶことばとして生まれました。

このような考え方をうけ、地元滋賀（Shiga）で地域に根ざした人たちをつなぎ（Network）、みんなで一緒に地球市民を育む活動に取り組んでいきたいという思いが込められています。

会のねらいについて

- 地球上には、自國文化を含め、さまざまな生活・文化等があることを知り、多様性を受け入れること
多様性の尊重
- 地域には、さまざまな文化背景や価値観等をもつ人びとがともに暮らしていることを認識し、多文化共生の意識を育むこと
多文化共生社会づくり
- 世界と自分はつながっていること、自分たちの生活と地球のどこかで起こっている問題が密接につながっていることを理解すること
相互依存関係の理解
- 地球的課題を解決するために行動すること
公正・平和な社会づくり
など

こうしたことをねらいとして、さまざまな実践方法（おもに参加型学習法）を学びながら、国際教育を促進することを目的としています。教育関係者・国際協力NGO関係者・外国籍住民・地域国際協会関係者、学生、青年海外協力隊OVなど、さまざまな立場や経験の持ち主が参加しています。これまでに滋賀県の特色を生かした題材をとらえ、「ブラジルボックス」「カルタ“わたしん家（ち）の食事から”」「非識字体験ゲーム『ここは、何色？』」「初めてのお見舞い」「『言葉がわからない』体験ゲーム『何が起きた？（震災編）』」の教材を開発してきました。また、より多くの方に国際教育を体験していただくよう年数回、国際教育ワークショップを開催しております。今後も幅広い知識や情報の交換を行い、より深みのある内容を取り上げていきたいと考えています。

入会について

毎月1回日曜日に例会を開催しています。さまざまな経験のメンバーが集まるクラブ活動のような会です。渡航経験や語学については、まったく心配していただく必要はありませんので、この研究会にご関心のある方は、お気軽に下記までお問い合わせください。国際教育・開発教育についての企画相談、講師派遣も隨時承ります。

<お問合せ先>
財団法人滋賀県国際協会 担当 大森
 〒520-0801 滋賀県大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2階
 電話:077-526-0931 フックス:077-510-0601
 E-mail:omori@s-i-a.or.jp

研究会22年度の活動について

開催日	内 容
4/25	新教材づくり、今年度ファシリテーター養成講座の内容の話し合い
5/22	甲賀市国際交流協会主催「世界まなびじゅく2010」講師派遣 「非識字体験ゲーム『ここは、何色？』」ワークショップ
5/30	新教材づくり、滋賀県総合教育センター 初任者研修（高校）の研修内容について話し合い 新教材デモンストレーションについて、滋賀県総合教育センター 初任者・10年経験者選択研修の講師について話し合い。
6/11	滋賀県国際交流推進協議会 国際交流推進セミナーにて新教材デモンストレーションを実施
6/26	新教材づくり、滋賀県総合教育センター 初任者研修（高校） 研修内容について最終確認
6/29	滋賀県総合教育センター 初任者研修（高校）にて研修実施 グローバル・エキスプレス「ワールドカップ」実践、県内外国人生徒の現状説明を行った。
7/17	ファシリテーター養成講座参加、新作教材デモンストレーションの実施
8/8	（特活）開発教育協会全国研究集会にて実践発表
8/11	滋賀総合教育センター「初任者・10年経験者選択研修」において、「非識字体験ゲーム『ここは、何色？』」「はじめてのお見舞い」、「単元計画を立ててみよう」「県内外国籍住民の現状説明」を実践
8/21	新教材補助資料作成のための、在住外国人への防災についてのインタビューの実施
9/23	新教材づくり（名称の決定）、滋賀県総合教育センター 初任者研修（中学校）の内容について話し合い
10/17	新教材づくり、滋賀県総合教育センター 初任者研修（中学校）の内容について事前確認
10/21	滋賀県総合教育センター初任者研修（中学校）にて研修実施
11/21	滋賀県総合教育センター初任者研修（中学校）報告、講師派遣要請への対応について話し合い 国際教育教材体験フェア開催について話し合い、新教材づくり、JCMU客員教授 Dr. Ball氏 ミニ講義「アメリカのマイノリティについて」
11/22	大津市立仰木中学校へ人権学習の一環として、新教材デモンストレーションを実践。
12/12	甲賀市国際交流協会主催「世界まなびじゅく2010」講師派遣 「国旗を作ろう」ワークショップ
12/18	滋賀県総合教育センター 初任者研修（小学校）について話し合い。その他講師派遣要請について話し合い、新教材づくり 解説書の校正など
12/26	新教材づくり 解説書の内容確認作業
1/16	新教材づくり 補助資料、国際教育教材体験フェアについて話し合い 長浜市教育研究奨励賞論文 筆者より報告
1/22	滋賀県自主防災組織リーダー研修会 滋賀県消防学校にて新教材を実践
1/23	開発教育連続セミナー 教材フェスタへ2分科会でオリジナル教材を使ったワークショップを実践 「ここは、何色？」「はじめてのお見舞い」、「何が起きた？」（震災編）」
1/25	滋賀県総合教育センター 初任者研修（小学校）講師派遣
2/19	国際教育教材体験フェア in 滋賀 参加 堀川高校生が開発した非識字体験教材のデモンストレーション
2/27	全国ボランティアコーディネーター全国研究集会にて、新教材を使った分科会の実施
3/20	次年度の活動について



まなびじゅく2010 出前講座（於：甲賀市）



JCMU客員教授 Dr. Ball氏によるミニ講義



国際教育教材体験フェア in 滋賀



滋賀県に暮らす外国人への防災に関するインタビュー大会